

4. 災害・復興支援、防災の取り組み

東日本大震災以降、中規模災害が発生すると、協会にボランティアコーディネーターの出動要請が寄せられるようになった。これは、阪神・淡路大震災や東日本大震災における支援活動の実績を評価いただいたためであるが、今後の災害時に、戦略的に支援活動に取り組むためにも、「災害・防災基本方針」を組織的に位置づけることになった。2013年度下半期から2014年度上半期にかけて常任が設置したワーキングで議論を重ね、2014年8月に基本方針を決定。2015年9月より「災害支援委員会」を新設した。基本方針では、協会自身のBCPの作成や災害時の出動の仕方や体制づくり、災害の備えとして平時から取り組むことなど、基本的な考え方を整理している。

2014年度の総括としては、災害・防災の活動に職員だけでなくボランティアが参加して取り組める体制が作れたことは大きな一歩である。組織的認知も高まり、災害・防災の活動が活性化した点を評価したい。

1. 災害時、あるいは備えとして平時から取り組む事業

（1）協会の「災害・防災基本方針」決定と「災害支援委員会」の新設

今後、大地震や異常気象による災害が予想される中、組織として備え、どう対応するかを考える部門がなかったため、13年10月に常任運営委員会がワーキンググループを設置。13年12月より検討を始め、14年8月度の常任運営委員会で「災害・防災基本方針案」が承認された。これを受け、9月1日より、「災害支援委員会」（座長・楠正吉、委員2人、事務局2人）が正式にスタート。基本方針のもと、体制作り、発災時の協会のBCP（事業継続計画）策定、迅速に動けるボランティアチームの結成などを推進した。

協会の「災害・防災基本方針」(考え方)

- ①協会の強みを生かした災害救援、復旧、復興活動に取り組む。
- ②協会内外の状況を冷静に判断し、その時々にもっとも効果的なパフォーマンスを果たせるよう動く。
- ③「備え」として平時から人脈づくりやネットワーク構築、資源開発や資金集め、人材養成などの事業に取り組む。

（2）協会のBCP（事業継続計画）の対応

①主要メンバーの安否確認訓練を実施

災害時、協会は支援側、ネットワークの軸側にいることを前提とし、一般より迅速な初動体制の構築が求められる。そこで、理事長・常任運営委員・事務局が参加して、災害用伝言板（携帯・スマホ用安否確認サービス）を使用した安否確認の訓練を行った。平時に「災害伝言板」の操作に慣れておくことがいざという時に役立つと実感。平素の訓練の大事さを思い知らされた。

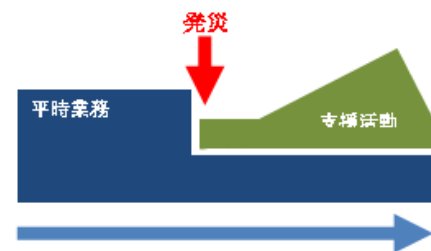
- ・開催日：2014年6月1日（日）10時から ・参加者：27人
- ：2015年1月18日（日）10時から ・参加者：33人

- ・訓練方法：携帯電話各社の「災害伝言板」を利用して、各自が安否を登録し、グループ毎に安否状況を集約した。

②協会自身のBCPを検討する主体の新設

通常業務の継続（場合によって限定）に関する判断の他、緊急時支援や特別体制についての機動的な意思決定をできる体制を作るとともに、災害時のスタッフ不足を前提とし、参加型組織の良さを最大限に生かして、職員とボランティアの協働による体制作りが求められる。その検討に着手した。

- ・日程：2015年3月30日、計1回
- ・内容：協会のBCPの考え方を整理し、本格的な検討に備えた。
- ・委員：楠正吉（チーフ）、水谷綾、永井美佳、岡村こず恵



（3）実災害の対応

①福知山市・丹波市への支援活動 ～災害ボランティアバスを4者合同で初運行

14年8月に北近畿で豪雨災害が発生。これに対し、大阪府社協、大阪市社協、堺市社協、協会の4者合同で、災害ボラバスを2回運行した。なお、社協と合同でボラバスを運行したのは今回が初めてである。

a) 福知山市合同ボラバス

福知山市へ出発したものの、現地大雨による受入中止のため発車5分で無念の引き返しとなった。協会からスタッフとして、ボランティアの森本聡と事務局の影浦弘司が参加した。

- ・開催日：2014年8月26日（火） ・参加者：41人（スタッフ込）

b) 丹波市合同ボラバス

丹波市で泥かきなどを行った。協会からボランティアの森本聡と事務局の影浦弘司がスタッフとして参加した。

- ・開催日：2014年9月3日（水） ・参加者：19人（スタッフ込）

②広島土砂災害への支援活動 ～災害ボランティアセンター運営者としてボランティアと職員がチームで参加

14年8月20日に広島土砂災害が発生し、現地では災害ボランティアセンターの運営者が絶対的に不足した。「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）」からの要請に応え、協会職員をのべ3名派遣。その当時、組織で議論されていた「災害ボランティアセンター運営の担い手を増やす」という観点からも、職員だけでなくボランティアの経験者も増やすねらいで5名が現地に赴いた。参加メンバーのふりかえりでは、「実際発災した時、地域との機関連携が重要」「情報発信と共有を優先した支援活動を」「平時の活動の中で取り組める視点があった」などを共有。今後、大阪での災害支援において、ネットワーク力を生かした活動の開発の芽を見ることができた。

- ・活動先：広島市災害ボランティアセンター、
広島市安佐南区災害ボランティアセンター・八木サテライト
- ・活動期間：2014年8月31日（日）、9月1日（月）、5日（金）～17日（水）、
計15日間
- ・先遣調査者：事務局・永井美佳（8/31-9/1）
- ・運営支援者（支援P派遣）：水谷綾（9/5-9、9/11-17）、梅田純平（9/8-12）
- ・運営ボランティア：入江由美子・紺屋仁志・白井恭子（9/5-7）、西誠・森本聡（9/13-15）



写真上・左から、白井さん、紺屋さん、入江さん。写真下・左から、西さん、水谷事務局長他。

（4）実災害に生きる人脈づくりやネットワーク構築

①「おおさか災害支援ネットワーク」の立ち上げと企画運営【新規】〔近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度・大阪企画〕

大規模災害時には、行政や関係機関のみならず、多様な市民セクターや企業・団体がそれぞれの強みや持ち味を発揮し、広域で効果的な連携・支援が必要である。そのために、平時より互いの活動を知り、災害への取り組みや課題の共有をしながら“顔の見える関係”を構築することが重要だが、大阪には災害時のネットワークがなかった。そこで「お互いを“知る”ことから始めよう」と大阪府社協、大阪市社協、堺市社協、協会の4者の呼びかけにより「おおさか災害支援ネットワーク」が始動。14年度は3回開催し、社協、日赤、共募、生協、連合、全労災、労金、青年会議所、NPOなどが参加。大阪だけでなく、滋賀、三重、和歌山、兵庫、東京より参加があった。

また、この取り組みを機に大阪3社協と協会の協働が進み、9月の災害ボランティアバスの運行につながるなど、災害時の連携において相乗効果を発揮した点も成果の一つである。

a) 第1回テーマ：「今から（さら）はじめる災害支援ネットワーク」

- ・開催日：2014年7月9日（水）15時～18時 ・会場：大阪社会福祉指導センター研修室3
- ・参加者33団体56人（内4団体は府外からの参加）
- ・内容：セッション1「互いに知り合う～口火切る・3団体からの報告」（大阪狭山市社会福祉協議会・松井康祐氏、大阪府生活共同組合連合会・中村夏美氏、大阪ボランティア協会企業市民活動推進センター・楠正吉氏）
／セッション2「互いに知り合う～全参加団体自己紹介」／セッション3「知り合う・深めるワールドカフェ！」

b) 第2回テーマ：「今、はじまった災害支援ネットワーク」

- ・開催日：2014年10月8日（水）15時～18時 ・会場：大阪赤十字会館301会議室
- ・参加者：41団体・67人（内4団体は府外からの参加）
- ・内容：セッション1「日本赤十字社の組織と災害時の取り組みを知る」（日本赤十字大阪府支部・嶋谷隆青少年・ボランティア課長）／セッション2「南海トラフ巨大地震について～被害想定と対策」（大阪府政策企画部危機管理室災害対策課・富銅一雄災害対策グループ主査）／セッション3「淀川区災害ボランティア活動シミュレーション」（大阪市淀川区社会福祉協議会・大川敏子氏他、大阪市社会福祉協議会・濱辺隆之氏）

c) 第3回テーマ：設定せず

- ・内容：セッション1「災害に強い地域づくりへの生協の取り組み」（大阪府生活共同組合連合会・中村夏美専務理事）／セッション2「（仮称）全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）構想について」（（特）レスキューストックヤード・栗田暢之代表理事）／セッション3「災害時に生きるネットワークづくりの進め方～都島区社協での取り組み」（大阪市都島区社会福祉協議会・木下掌悟氏と他地域より4人）／ワークショップ「災害時に生きるネットワークづくりの進め方」（大阪ボランティア協会・永井美佳）
- ・開催日：2015年1月20日（火）14時～18時 ・会場：おおさかパルコープ本部事務所
- ・参加者：46団体・67人（内4団体は府外からの参加）

d) 世話役団体（6団体）：大阪府社会福祉協議会★、大阪市社会福祉協議会★、堺市社会福祉協議会★、大阪府生活共同組合連合会、大阪市淀川区社会福祉協議会、大阪ボランティア協会★ ※呼びかけ団体は★印の4団体

- ・会議日程：2014年4月16日、5月14日、7月1日、8月6日、9月3日、9月24日、10月31日、11月20日、2015年1月7日、2月20日、3月24日、計11回開催

②「災害支援に活かすNPOの力～いざという時の顔の見える関係づくり」の企画運営に参画【新規】

[近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度・共通企画]

ボランティア元年と言われた阪神・淡路大震災から20年、NPOの災害支援活動は著しい進歩を遂げてきた。この間の災害をふりかえるとともに、「災害時にNPOの役割と出番がある」ということの再確認と、今後の備えについて考える機会を設けた。この企画運営に事務局・永井美佳が参画し、当日はコーディネーター役を担った。

- ・開催日：2014年12月7日（日）13時30分～18時 ・会場：西宮市民会館中会議室401 ・参加者：80人
- ・内容：基調講演「災害時のNPOの役割」（大阪大学大学院人間科学研究科・渥美公秀教授）／事例発表「コミュニティ」「多文化多言語」「福祉」「自然環境」「子育て」に取組むNPO法人より発表／意見交換／交流会
- ・主催：シンフォニー ・共催：阪神NPO連絡協議会、大阪ボランティア協会、きょうとNPOセンター、奈良NPOセンター、わかやまNPOセンター、しがNPOセンター、滋賀県労働者福祉協議会、近畿ろうきん
- ・企画会議日程：4月21日、6月3日、8月28日、9月10日、10月14日、11月18日の計6回

③「被災障害者継続支援『東北⇄関西 ポジティブ生活文化交流祭』実行委員会」への参画

東北で被災した障害者が元気になれる日まで息の長い支援活動を続けようと、2011年に主旨に賛同する団体で実行委員会を結成。大阪ボランティア協会は実行委員会に参画し、以下のプログラムに参画した。

a)「まちなか被災シミュレーション」の企画運営に参画

ボランティア活動やガイドヘルプ等で訪れた都心で、障害者やさまざまな事情を抱えた人と一緒に被災した場合に、自分ならどうするのかを参加者に問いかけるワークショップ「まちなか被災シミュレーション」。障害当事者の目線、ボランティア・介助者の役割など、各々の事情を察しながらも安全を確保し、無事に避難することをチームで考える機会を提供。2014年度は2回開催。この企画運営に事務局・永井美佳が参画した。

【第7回】2014年10月8日（土）15時～18時 ・参加者：21人（うちスタッフ8人） ・会場：大阪市大正区編

【第8回】2015年2月11日（水祝）13時～17時 ・参加者：47人（うちスタッフ6人） ・会場：梅田地下街編

・企画運営：同実行委員会（通称「アロハーズ」：日常生活支援ネットワーク（事務局）、b-free、ライフサポートネットワークいけだ、大阪ボランティア協会）

b)「ゆめ風基金 ずっと続けてく被災障害者救援 街頭募金活動」への参画

東日本大震災発生直後から毎月続けてきた募金活動。2013年度より毎月第2土曜日13時～17時、大阪タカシマヤ前にて開催。協会からは、「ボランティアスタイル」のプログラム「震災復興募金ボランティア」を通じて、全9回参加し、48人のボランティアをつないだ。

④内閣府「広域大規模訓練ワーキンググループ」「広域大規模訓練」への参画

内閣府（防災担当）が実施する「平成26年度多様な主体の連携促進事業調査業務」（受託者：㈱ダイナックス都市環境研究所）の一環として、「首都直下型地震時の災害ボランティア活動 連携訓練」の実施と訓練モデルの作成を行うワーキングに、事務局・永井美佳がワーキング・グループメンバーとして参画した。

・日程：[ワーキング]2014年9月26日、10月23日、11月14日 [訓練]2014年12月11日・12日

・会場：中央合同庁舎第8号館・内閣府防災担当会議室、有明の丘基幹的広域防災拠点施設内会議室

⑤内閣府「防災ボランティア活動検討会」への参画

内閣府（防災担当）が主催する「平成26年度防災ボランティア活動検討会」（受託者：㈱ダイナックス都市環境研究所）に、検討メンバーとして、事務局・永井美佳が参画した。

・日程：[第1回（通算20回）]2014年11月11日 ※第2回（2/25）は欠席。 ・会場：日本教育会館中会議室

（5）災害時に動ける人づくり

①災害・防災をテーマとした講師派遣依頼

2014年度に依頼を受けた災害・防災をテーマとした講師派遣は5件（13年度7件）だった。14年度は、災害ボランティアセンターの運営や災害ボランティア入門などのテーマで依頼を受けた。

②SUG（すぐに動きますグループ）の新設【新規】

前述の広島土砂災害での実災害支援の実感をもとに、14年12月に「SUG（すぐに動きますグループ）」を新設した。

・日程：[準備会]2014年11月9日（日）、[正式会議]2014年12月13日（土）、2015年1月17日（土）

・内容：実災害時の支援活動・自主運営体制の検討に着手し、次期災害シーズンに向けて準備を進めた。

・委員：森本聡（チーフ）、入江由美子、白井恭子、紺屋仁志、西誠、永井美佳

③「阪神・淡路大震災から20年：震災追悼&災害ボランティアを学ぶ・伝える学習会

大阪ボランティア協会の『震災ボランティア』をふりかえる」の企画運営【新規】（再掲・2章参照）

・日時：2015年1月17日（土）17時30分～20時 ・会場：CANVAS谷町大会議室 ・参加者：61人

2. その他、災害に起因して取り組むもの

（1）東日本大震災・復興支援活動の検証

社協活動実践研修委員会にて、災害ボランティア活動支援を検証し、外部支援者としての成果と課題を報告した。

- ・内容：「社協における災害ボランティア支援のあり方」（東日本大震災における災害ボランティア支援についての検証）
- ・日時：2014年9月19日（金）14時から17時 ・出席者：岡村こず恵 ・主催：宮城県社会福祉協議会

（2）広域避難者の支援活動

全国の避難者等の数は約23万人で、全国47都道府県の1154市区町村に所在している。このうち近畿には、127市区町村に3295人が確認されている（復興庁調べ、2015年1月15日現在）。14年度の取り組みは下記の通りである。

①避難者支援活動に取り組むグループの運営相談

2団体（パートナー登録団体）に対し、のべ6回の運営相談に応じた。相談内容は、ボランティアの活動条件や募集方法について、リーダーや活動者のケア、団体運営の色々について。相談は主に事務局・永井美佳が担当した。

②「ホッとネットおおさか（大阪府下避難者支援団体等連絡協議会）」への参加

「ホッとネットおおさか」は、大阪府内にすむ東日本大震災における被災者・避難者が府内のどこでも必要な支援を受け、主体的な生活を送れるよう、各地域で活躍する支援団体・避難当事者が2012年5月に結成したネットワーク。第12回定例会（6/24）に事務局・永井美佳が参加した。

※第13回（9/2）、第14回（11/5）、第15回（1/21）、第16回（3/3）の定例会は、他業務の都合で欠席した。

③「広域避難者支援ミーティング in 近畿2」への参加

東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）が主催する事業で2014年9月30日に開催。協会にも参加要請があり、事務局・永井美佳が参加した。

（3）震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI 2015」の企画運営と同実行委員会の事務局運営

「おたがいさま」「忘れない」「関西でできること」をテーマに掲げて通算4回目の開催となった。過去3年間は不特定多数の来場者を対象とした市民啓発イベントを行ってきたが（第1フェーズと位置づける）、14年度からは関西における災害時ネットワークの構築をねらいに含めて企画。今回は、フェーズをシフトチェンジする年となった。

①震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI 2015～これから、わたしにできること」の開催

- ・日時：2015年3月11日（水）13時～17時50分
- ・会場：梅田スカイビル タワーイースト 36階 スカイルーム1 ・参加者：160人
- ・内容：◎第1部「関西のみなさんへ伝えたい～3.11の教訓とは」～「災害時、地域で暮らす障害者のいのちとくらしをどう維持できるか？」…ゲスト：山元町共同作業所「工房地球村」・田口ひろみ施設長、ナビゲーター：（認特）トゥギャザー・上月正洋専務理事
- ◎第2部「復興5年に向けて～行って応援・買って応援」～「復興応援ツアー『防災まちあるき』はいかがですか？」…ゲスト：（一社）みらいサポート石巻・大塚友子復興支援員、～「“伝統”と“かわいい”をコラボしたオリジナル商品『omoi no mi』をプロデュース」：ゲスト：女子の暮らしの研究所・大竹由布子研究員、「関西と東北をつなぐ経済支援の取組み」…ゲスト：（公社）ソーシャル・サイエンス・ラボ・川井徳子専務理事、ナビゲーター：（特）ユースビジョン・赤澤清孝代表、コメンテーター：（一財）ダイバーシティ研究所・田村太郎代表理事
- ◎非常食の試食体験（提供：積水ハウス）、「買って応援」の商品販売
- ・主催：3.11 from KANSAI 実行委員会 [構成団体]（福）大阪市社会福祉協議会／近畿労働金庫／（一財）ダイバーシティ研究所／（特）遠野まごころネット／（特）ユースビジョン／（福）大阪ボランティア協会（事務局） [運営協力団体] おおさか災害支援ネットワーク／（認特）トゥギャザー／（株）PRリンク
- ・協働事業パートナー：2014年度近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度／大阪市立大学大学院創造都市研究科
- ・協賛企業：大阪ガス（株）／サントリーホールディングス（株）／積水ハウス（株）／大日本住友製薬（株）／産経新聞社／センコー（株）／全労済アシスト（株）／トップツアー（株）大阪支社



②「3.11 from KANSAI 2015 連携企画」の募集と公式ウェブサイトによる広報協力

- ・「3.10 避難者交流会」（まるっと西日本主催）、2015年3月10日（火）10時30分～13時頃、CANVAS谷町にて開催
- ・「3.11さかい灯りの花広場「微力だけど無力じゃない」明日へつながれ祈望のライブ2015」（主催：同実行委員会）、2015年3月11日（水）12時～20時頃、堺市市役所前広場にて開催

③「3.11 from KANSAI実行委員会」の事務局運営

東日本大震災の復興応援にかかわる関西の団体を核として実行委員会を組織。運営協力団体を交えて、第2フェーズを迎える「3.11 from KANSAI 2015」の企画運営を行った。協会は、14年度も同実行委員会の事務局を担った。

- ・日程：2014年4月30日、10月28日、11月18日、12月25日、1月13日、2月3日、2月16日、計7回
- ・内容：「3.11 from KANSAI 2015」の企画運営、公式ウェブサイト・Facebook運営、プレスリリース、協賛募集等